



多賀城市防災主任者会の12年間 の取組～連携を力に進める地域の特性を踏まえた 主体的・持続的な防災機能整備と防災教育～



宮城県多賀城市防災主任者会
多賀城市立天真小学校
安全担当主幹教諭 千葉 浩一

1 団体の概要

多賀城市内の小学校6校と中学校4校の安全担当主幹教諭、及び防災主任の合計11名と、多賀城市内の公立・私立高等学校3校の防災担当職員で構成される任意団体であり、年間4回程度の定例会において、協議の中で挙げた各学校の防災に関する課題等に取り組んでいます。また、定例会には市教育委員会、市危機管理課、アドバイザーとして東北大学災害科学国際研究所の佐藤翔輔先生、保田真理先生にもご出席いただいております。

2 背景

東日本大震災では、多賀城市でも多くの方が亡くなり、一部の子どもたちは、避難の途中で多くの遺体を見るなど心の傷の被害も広がりました。そこで、「防災」の職にある者が自校だけの活動で収束するのではなく、他校とチームを組み、情報や考え方を多面的な観点から交流、各学校の具体的な施策や教育を主体的に考え、取り組んでいくことが必要であると考えました。

3 取組内容

年間4回程度の定例会を持ち、
①各校の情報交換、②市の防災担当部局との情報共有、③各校の取

組や市の防災施策に関する意見交換、意見調整を行ってきました。また、防災に必要なと思われる基本的な知識やスキル、さらに多賀城市の防災備品や無線の使用法について、短時間研修として定例会の中に位置づけてきました。特に、毎年行われる多賀城市の総合防災訓練については、防災主任者会としての意見や疑問点を市に送り、よりよい計画となるよう努力しています。東北大学災害科学国際研究所には、先進的な取組事例の紹介や、防災の施設、防災教育の取組の情報について、さらにこれまで交流のなかった高校の先生方、特に多賀城高等学校の災害科学科の取組についての情報などを共有することができ、専門性の高い研修を行うことができています。

12年間の取組の中でのその他の主な取組・多賀城市防災教育副読本（資料集）の編

令和5年度版

多賀城市立小・中学校 防災教育年間指導計画

みやぎ防災教育副読本（未来への絆）
多賀城市防災教育副読本資料集（命をまもり未来をひらく）
を活用した年間計画



多賀城市防災主任者会

年間指導計画の表紙

集

- ・多賀城市防災教育副読本活用のための授業実践記録集と年間指導計画の作成（実践集と年間指導計画の自校化）
- ・登下校・在宅時における避難計画（個人マニュアル）様式の作成と自校化

4 おわりに

専門的な新しい知見をもつ東北大学災害科学国際研究所と連携することで、児童生徒や関係者の主体的な防災行動に結びつける方法を知ることができ、各校の実践や防

災の取組の改善を図ることができました。また、高等学校を含めた異校種間での連携、協働など共助の具体的な推進が図られました。12年間継続して活動を進められてきたことは、常に担当者が入れ替わる学校組織の中で、防災意識を維持し、現状に応じた主体的な防災教育を持続していく上で大きな意義があったと考えています。これからも地域に根ざした団体として「常に危機意識を忘れずに行動できる自立した子ども」を育成することを目指して取り組んでいきたいと思ひます。



小・中合同で実施した市総合防災訓練



地域の方々から発電機の設置を学ぶ中学生



市総合防災訓練で焼き出しを配る様子



小・中学生の地区ごとの集団下校